

地域に伝わる伝説や民話、文化財などを紹介

にしあいづ物語100選 その40

文：岩橋 義平

はなだて

花立峠（大船沢）の狐ものがたり

奥川の地は、喜多方と津川を結ぶ道の中ほどに位置し、米や塩が運ばれ、人や馬の往来の多いところでした。しかし、奥川の村は谷あいであり、西へ行くのにも東へ行くのにも峠を通らなければなりません。その峠の1つ「花立峠」は、真ヶ沢集落の東にあり、喜多方への道はここを通るのが主でした。真ヶ沢から登り坂となり、小綱木集落にある西光寺前を登って行きます。その坂を登りきったところが花立峠頂上になります。頂上からは、前方に万年雪を頂く飯豊山を眺めることができ、疲れを癒してくれます。『新編会津風土記』大船沢村の条に「花立坂（前略）ここに花台石と彫り付けたる石塔あり、高さ三尺を計る、飯豊山神社の正面に当たれりとて石塔を立てしとぞ」とあり、ここは飯豊山神社の遙拝所でもありました。



花立峠からの眺め



今も残る石塔の基礎部



また、この峠周辺には狐に騙された話が多く伝わっています。

昔、お万、お七、次郎という3匹の狐が「騙しくらべ」をして得意になっていました。いつしか、お七と次郎はお万の騙し上手にはかなわないと降参し、この地を去っていきました。お万の技はその後でも衰えることなく騙し続け、多くの通行人を困らせたということです。

それからは、次のような唄が伝わったということです。

お万なるかや古狐 とし まおんな 年増女に化けて出て

酒よ肴とだまされて 何を食ったか分らぬが

枯葉のせんべい土の菓子 まぐそ 馬糞の山の茶饅頭 ちやまんじゅう

みぞ た 溝田の窪み風呂とみて 脱いで入るや水たまり

働き金のあらましを 木の葉の小判と替えられて

後の祭りだもう遅し 頭抱えて如何にせん

帰る我が家に子の顔と 角たて怒る恋女房

今月の表紙

今回は、7月4日に行われた西小わくわくクラブの田んぼの生き物調査から。どろどろになりながら夢中で生き物を探す児童たちを見て、カメラ越しに思わず笑みがこぼれました。（6ページに関連記事）



編集後記

あつという間に8月号です。広報紙の作成では記事の配置や原稿に頭を悩ませるのはもちろんですが、フォント（書体）を選ぶことも大変な作業です。使えるフォントの種類はなんと約300種類！フォントによって読み手に与える印象も変わります。

「にしあいづ」

「にしあいづ」

同じ文字でも印象が全然違いますよね。フォントに注目しながら、広報紙を読んでみるのもオススメです。（秦）